

WEEKLY SIGNAL

平成30年9月7日(金) 1440号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/10(月)	9/11(火)	9/12(水)	9/13(木)	9/14(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 400	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 22,600	+ 5,000	△ 10,000	+ 4,000	△ 11,000
資金需給	△ 22,200	+ 6,000	△ 10,000	+ 4,000	△ 12,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M)		源泉税揚げ 国債発行(30年)		国債発行(5年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,200 国債補充供給 + 200 CP等買入 △ 600				貸出増加支援 △ 25,900
オペスタート	共通担保(全店) + 1,400				
(日本)	国内総生産(4-6月改定値) 国際収支(7月)	マネーストック(8月)	日銀営業毎旬報告(9月10日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	機械受注(7月) 企業物価指数(8月)	
(海外)	米 アトランタ連銀総裁、講演	世界経済フォーラムASEAN会議 (ベトナム・ハノイ、13日まで)	米 セントルイス連銀総裁、講演 米 ベージュブック 欧 ユーロ圏鉱工業生産(7月)	米 アトランタ連銀総裁、講演 欧 ECB、金融政策会合・会見 米 CPI(8月) 米 新規失業保険申請件数 (9月8日終了週) 米 財政収支(8月)	米 シカゴ連銀総裁、講演 米 ボストン連銀総裁、講演 米 小売売上高(8月) 米 シカゴ大学消費者マインド指数 (9月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初389兆4,700億円から始まった。その後は税・保険揚げ(4日)などの財政等要因や、国債の発行(6日)などを受けて減少し、週末には385兆8,000億円となった。
無担保コールON物は、先週に引き続き、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが強く、同加重平均金利は週を通して△0.054~△0.051%のレンジで推移した。
ターム物は1~2W物を中心に、△0.035~△0.025%で取引がみられた。
6日、アメリカ労働省が発表した9月1日までの新規失業保険申請件数は20万3,000件となり、前週対比1万件的の減少となった。1969年12月以来、48年9か月ぶりの低水準であり、労働市場の底堅さが保たれていることが示された。
来週の主な予定は、国内総生産(4-6月改定値)(10日)、海外では世界経済フォーラムASEAN会議(11日から13日まで)、ECB金融政策会合・ドラギ総裁記者会見(13日)がある。

<C P>

今週の入札発行総額は約6,700億円、週間償還総額の約8,200億円を下回った。発行市場は、大型案件は散見されたものの案件数そのものは少なく、やや閑散なマーケットとなった。週末の発行市場残高は、先週約定分の月初スタートが多かったことから、約19兆6,000億円と先週末(約19兆3,800億円)から増加した。発行レートは、期内物は0%~浅いプラスレートの出合い。期越え物のレートについては、4日に行われたCP等買入オペの結果を受けて、一部に深いマイナスレートも見られた。CP等買入オペ(7日スタート)は、予定通り4,500億円程度オフアールされた。買入額が前回に比べ大幅増額(+2,500億円)となった事もあり、一部では足切レートが大きく流れると予想する向きもあったが、応札額が1兆238億円と膨らんだこともあって、按分レートは△0.007%と落ち着いた結果となった。来週の償還総額は、1兆1,800億円程度となっている。発行動向は、有利子負債の圧縮ニーズもあって期日償還を迎える案件も多く、償還超となる見込み。発行レートは、期内物は0%近辺~浅いプラスレートでの出合いを予想し、期越物はディーラーのニーズが強いことからマイナスレートでの出合いが予想される。11日に、CP等買入オペが4,500億円程度実施される予定である。

<TDB>

6日に行われた6M781回債入札は、最高落札レート△0.1502%(前回債△0.1451%)、平均落札レート△0.1563%(同△0.1549%)と前回債から小幅マイナス幅を拡大した。一方、7日に行われた3M782回債は需要が乏しく、最高落札レート△0.1323%(前回債△0.1463%)、平均落札レート△0.1391%(同△0.1531%)と前回からマイナス幅を大きく縮小した。週末のセカンダリー市場では同6Mは△0.16%程度と入札水準からやや買われるたが、同3Mは△0.132~△0.13%と、軟調な地合となった。
来週は14日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.10%近辺から始まり、週央にかけてレートは横ばいで推移した。その後週末は国庫短期証券3M・6Mの発行が重なり、△0.09%近辺までレートは上昇。他SC取引では10年351回債のbidが多く、10年債入札前日の5日受け渡しでは△0.6%台半ばまで出合い。そして入札後は△0.10%近辺で取引された。他2年389・390・391回債、5年134・135・136回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。